

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1444 号	氏名	本田 涼子
学位審査委員	主 査	森内 浩幸	
	副 査	松尾 孝之	
	副 査	辻野 彰	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、薬物抵抗性の難治性てんかんの乳幼児患者に対する脳梁離断術の有効性を明らかにしようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 6 歳未満の薬剤抵抗性の難治性てんかん患者で、発作焦点となる病巣が定まらず切除手術の適応がないと判断された 106 名に脳梁離断術を施行し、Kinder 乳幼児発達スケールを用いて術前と術後 1 年時点での発達評価を行いとともに発作予後を評価し、予後に関わる因子を統計学的に解析したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 多くの患者はてんかん性脳症の状態で重度の発達遅延 (DQ 平均値 25.0 [SD 20.8]) が認められ、術後 1 年時の DQ も平均的にはやや低下 (平均値 23.1 [SD 18.5]) していた。しかし、42.5%の患者では平均 6.5 ポイント [SD 6.4] 上昇し、「術前の DQ が低いこと」「術後 1 か月での発達改善」「術後の発作消失」が発達予後の改善に有意に関連することを明らかにし、今後の神経学的研究への進展とてんかん診療の質の向上が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は神経学領域における研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			